



組合員の購読料は
組合費に含まれます

荒川区西日暮里2-55-1
国鉄労組東京地方本部
発行責任者 石上浩一雄
編集責任者 常盤達雄

No.1704 定価
15円

2008年

11月5日

国労加入を
大胆に訴えよう

和解から組織拡大へ II 貨物分会交流集會を開催II

一〇月五〜六日、三浦海岸において、地本主催の貨物分会交流集會が開催された。

石上委員長は「チェック機能を働かせ、労働条件・安全・安定輸送を守ろう。そのためには国労が職場の中心にいる事が大事。また、関連労働者の組織化・情報交換も大事」と挨拶した。

本部濱中書記長からは貨物一括和解後の取り組みについて「赤字をどうするかは労使が対立するが、共通の課題でもあり政治的援助が必要。会社も組合介入の解消に動いている。支社単位の昇進試験が本社扱いとなり、公平公正な扱いに向けた会社の一つの動き。仕事・安全総点検運動は会社を逃がさない有効な戦術」などと報告した。

各機関から、新橋支部・神奈川地区本部から、組合間格差是正や組織拡大に向けた取り組みの報告を受けた。

関東保全技術センター分会からは「分会の要求で現場長交渉を行ったが受け付けられない。そこで安全衛生委員会を出し現場調査の約束をさせた」。新座貨物ターミナル駅分会からは「分会でアンケートを行った。無理な作業が多い。ダイヤ・一人作業の解消など人的要求が多い。急ぎ作業はやめよう」と話し合い、取り組みを若い人たちに見せるようにしている。大宮車両所分会からは「毎年一〇人位新採が入っ

て来る。技術継承も考えなくては」など様々な報告がされた。

松川書記長からは「和解で終わりではない。会社を変える努力が必要。私たちが変わらなければならぬ。組織拡大に向け個々人の動きをどうつなげていくかを考えよう」などの提起があり、その後系統別に分かれ、白熱した分散交流集會が行われ、夜は食事をしながら

人間らしく生きるために 国労に復帰 中野電車区分会

一〇月一日、中野電車区で国労に復帰加入した三名の歓迎集會が都内で行われた。

後藤分会長は、「JR東労組に嫌気がさしていたが我慢しながらいた。でももう我慢できなくなり国労に復帰した。本人たちは国労の仲間が「快く迎えてくれるか心配」と語っていたので、先輩も含めて皆に聞き取りをし

たが、皆が「昔は普通の状態ではなかった。喜んで迎える」と言ってくれた。中野電車区が特別な職場ではなく、どこかの職場でも国労復帰が出てくるだろう」と現状の報告をした。

復帰した仲間は、「若い人が国労に加入したのが影響した。でも快く迎えてくれるか心配だったが、快く迎えてくれた」と喜びを語っ

の楽しい交流となった。

二日目は、東日本本部高野書記長から中労委におけるあっせん申請の経緯・状況の話があり、その後分散集會の報告では「六〇歳以上の嘱託者に作業の軽減で働き続けられる職場を。あらゆる物が老朽化し、安全が脅かされている実態。上位職代行の問題。国労だけではなく、職場を代表する突っ込んだ要求を」

「要員が大幅に不足。ダイヤ改正毎に行路がきつくなる。ダイヤや勤務を管理するアクトイスというシステムが不十分で、乗務員が出場してみたら列車が運休という事すらあった。ソフト・ハードで対策が中途半端」「要員が不足し、下請でもプロパー社員が作れず、工場もベテラン社員が不足。教育できる余裕。要員が無い」「二名で作業に行き、側線が多く二人で作業。至近距離を列車が通る所も多く、安全問題の取り組みが重要」といった報告が出された。全体討論、書記長のまとめ、東協協幹事の坂本さんの団結ガンパローで終了した。

地本主催で貨物に特化した交流集會は初めてでもあり、再び交流集會を開催してほしいという要望が多く出された。

た。また「JR東労組は専従者が突然来たり、国労に加入した次の日から役員クラスは挨拶もしなくなつた」とJR東労組役員との約変ぶりを報告したのち、「人間らしく生きるために国労に来たので宜しくお願いします」と決意を語った。

歓迎集會には、東日本本部から武田組織部長、東京地本から宮崎組織部長、新橋支部から山田委員長と石井業務部長、中野地区協議会役員らが駆けつけた。

横須賀市 南足柄市 で自治体決議

九月
二九日、四日前に原
子力空母
ジョージ・
ワシントン
が入港
するなど
騒然とす
るなか、横須賀市議会議事本会議で「JR不採用問題の早期解決を求める意見書」が採択された。

引き続き一〇月六日、同じ神奈川地区本部管内の南足柄市でも始めて採択された。

これで自治体決議は、累計七七一自治体一一四九本となった。

地方本部は、有利な情勢を生かすべく、一〇月二四日に開催される中央大集會を目前に控えた中で、各県・地域での大衆行動・地区集會を重ねると同時に、自治体決議の更なる採択を目指している状況での報告となった。



拡大報告

9/26 10/4
10/10

中野電車区で二名の主任運転士 大宮電力技術センターの三五歳

地方大会前日、 JR東労組より 四名が復帰加入

職場の改善は国労拡大で

SS 第59回定期地方大会 発言録 SS

九月二七日に開催された第五九回定期地方大会については、前号で若干の報告をさせて頂いたが、今号で詳細をお知らせする。紙面の都合上、特別決議二本、組織検討委員会報告・安全対策委員会報告、規約改正の詳細など割愛させて頂いた。ご了解を願いたい。

経過報告等質疑

合田満(上野・我孫子保線技術センター)
出向者について、作業が広範囲になり増大、プロパーの技術・経験が不足。連夜は増大し、劣悪な労働条件。エルダーを含め、出向者を団交に入れる必要がある。和解を感じられない。出向の現状と今後は。

JR東日本会社との和解が成立し二年を経過したが、職場には不公平感が存在すると報告されている。改善を求めて交渉を行ったが対立に終わり、やむを得ず九月九日中央労働委員会に「あつせん申請」を行った。その内容は、「人事・労務・個人情報などの適正な管理と、それに係わる立場の管理者の体制の整備を図るべき」というもの。
JR東日本会社の「安全・安定輸送」の確立に向け、安全対策委員会を設置し事実の検証をした。また、仕事総点検・安全総点検運動を定着させ「職場の活性化」を図ってきた。「技術力の維持向上と継承・発展」は重要な課題であり、「健全な労使関係」の確立がポイント。本年三月に和解をしたJR貨物会社に対しても、今後求めていく。
組織拡大の取り組みについて、組合員が共感し、共通した課題として出来ることをやりきる体制確立を進めてきた。職場で信頼される人と人の関係作り、相手の気持ちをつかみ、職場の活力を生み出し、分会活

昇進試験で四名の一次合格者が出たが、一括和解の成果だとは思えない。一五回試験を受け、職場の中心を担い、信頼され会社に協力し、小集団活動までして落とされている。一方、新入社員が面接のみで二等級に。公正・公平の言葉だけに惑わされては組合員も納得しない。自動昇格を求める。
従順の強要と競争を通じた効率化・合理化の推進。戦略的課題を明らかにし、地本の独自性と組合員に依拠した闘いの強化を。

青木孝一(上野・東十条駅)
A口改札が委託。団交では、教育・標準数は委託会社が決めることと他人事のような回答。出向会社との窓口がないと解決困難。団交のあり方の見直しを。
安全問題で、山手線ホーム柵導入は良いこと。

運動の活性化をもたらした。昨日、中野電車区で二名の拡大があり、昨年の大会以降一一名が国労に復帰・加入した。また、初めて契約社員へのアンケートを行い、反復運動として活用していただきたい。組織強化・拡大を最重要課題と位置づけ、取り組みの強化を改めて訴える。



永年勤続表彰の皆さん

しかし、ホームの無人化や、ワンマン化が見え隠れしている。地方交通線の更なる効率化、切捨てを推進している。公共交通の確立を。経営ビジョン二〇二〇の国民生活に関わる問題の検証を。
組織の拡大は、国労運動を強化・発展させていく上で重要な課題。出向先の労働条件の改善も任務。安全を守り、関連労働者も視野に入れた取り組みを進めて欲しい。

新川修一(新橋・有楽町駅)
組織拡大について、エルダー社員・平成採の若手社員への組織拡大は重要。情報交換と、元職場の取り組みがポイント。組合員一人ひとりが加入者を守る意思統一を図り、一層の団結が強化された。日常の分会活動が重要だ。組織対策費は、五〇〇円の徴収内容と配分根拠を明らかにして欲しい。

に解決交渉の開始を求める申し入れを行った。不採用問題の全面解決を求める要請書も、個人三〇万筆を超え、団体署名は一万を超える賛同をいただいた。何よりも重要なことは、解雇当事者である政府、鉄道・運輸機構の「紛争を解決する」という決断であり、その環境作りに向け、世論作り

昇進試験について、今年度分会では合格者ゼロ。実感として差別は続いている。若手社員の間でも、差別が拡大。サービス、小集団、会社レク等、会社の施策に協力的ではない若手社員も差別の対象。各職場における職制の調査と業務実態を検証することが重要。その矛盾を明らかにし、自動昇格を含めた昇進制度の見直しの闘いを要請。
千葉利吉(新橋・品川車掌区)
国分寺変電所火災、山手線の線路故障など大混乱。鉄道の安全が脅かされている背景は、人減らしと儲け第一主義、予防主義から発生主義への転換などの経営方針にある。
乗務員基地再編で動揺と不安。要求の討論を行い、支部は対策会議を開催し、直ちに対応できる体制と要求の整理を行った。池袋運転区では、会社とJR東労組が一方的に運転区の準備委員会を立ち上げ、話し合い。また池袋車掌区では区長名で運転区に向けての進捗状況について掲示。しかし、提案は無く、労働条件、諸設備なども不明。
憲法改悪への国民投票も考えられる。憲法九条を守る闘いの先頭に立ち、一層奮闘されることを要望。



議長団

いじ企画社員が対応するようになった。
河辺駅社員にも小作駅での対応を伝えてきた。かじ企画の小作駅として、超勤ではない対応を求めた。七月から拝島駅社員が対応。劣悪な超勤対応はなくなった。闘いは職場からであることを感じた。
非公式ながら、かじ企画を環境アクセスに統合する計画がある。他支社においても、そのような計画があるのか。
出向連、四支社の連携を今後どのようにしていくのか考えを示して頂きたい。

松井弘文(八王子・河辺駅)
河辺駅分会も、河辺駅のみが本場で、小作駅、羽村駅はかじ企画。全員が現地出向。小作駅一徹体制により、車椅子利用者が来る五時五八分について超勤対応していたが対策を要求。駅付近のか

勢を見極め、今後の運動の展開を展望し、一〇月二四日の一万人中央集会を成功させよう。
私たち勤労国民が、憲法で保障された健康で文化的な生活をも脅かされている。深刻な状況下におかれている。又、一、六〇〇万人余りの非正規雇用労働者など、日本の労働者を取り巻く環境は最悪の状態にある。

昨年七月の参議院議員選挙では与野党が逆転したが、年金問題や後期高齢者医療制度の導入、諸物価の相次ぐ値上げなど、労働者・勤労国民の生活や将来設計に暗い影を落としている。日本の将来を見据えた取り組みをしていかなければならない。
平和に安心して暮らせる社会・ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の実現を目指し、全野党の勝利に向けて奮闘するとともに、来年七月の都議会議員選挙に勝利しよう。
地方本部が、その先頭に立って奮闘する。

安全・安定輸送確立は健全な労使関係から



執行委員長 石上 浩一

JR不採用事件について、七月一四日、東京高裁から、当事者が訴訟外でソフトウェア・エンジニアリングするための「訴訟を離れた話し合いによる解決」という提案がされ、冬柴元国土交通大臣は「誠心誠意、解決に向かっている」との発言をした。鉄道・運輸機構は、席に着く姿勢の見解を示した。四者・四団体は、九月一八日鉄道運輸機構

「採用差別国労訴訟」「横浜人活訴訟」などの裁判闘争の取り組みの強化、新国土交通大臣への継承、四原告弁護団の意思統一、四者四団体の団結による政府与党対策、国土交通省鉄道局対策などが重要な課題。鉄建公団訴訟の結審が二月二四日となり、判決まで半年とも言われている。そうした情

機構側のテール設置前提が、一審判決マインスマに固執している。また、政権投げ出しで、政治の動きが止まった。一月二四日が結審で、判決は年度内の模様。千載一遇のチャンス。総選挙の野党躍進で、解決の基盤を我々自身の手で創り上げよう。
横浜人活、国労訴訟裁判が闘われているが、個々人の処分の不当性立証が必要。勝利判決を勝ち取る体制を整えたとき政治的解決、裁判所での和解も進む。
ILOは八回目の勧告を出した。「法廷が解決の道筋を見出すことを期待」となり、大幅に後退した。ILOに働きかけ、従来以上の勧告を求め奮闘しなければならぬ。
大衆行動の発展なしに労働争議の解決はない。一〇二四集会の大成を収め、闘争団が要求をする雇用・年金・解決金を勝ち取り、皆さんと共に闘って良かったと喜び合える解決を勝ち取るため、我々闘争団は全力挙げよう。

特別発言

新山団長(東京闘争団)

運動方針質疑

丸山淳一(自動車・JRバス諏訪営業所)

運転手は作業責任を全て負わされる。九月にいわきで死亡事故が起きた。肉体的、精神的な重圧。合理化・要員不足でも、管理者は法令に違反していないと言ふ。連続勤務や年休抑制など多くの問題。他労組組合員にも共通の課題。交運労働の制度政策要求に。

競争の激化、労働条件の切り下げ、超勤で生活を維持。非正規雇用の社員が全体の三四%、待遇改善が必要。昇進試験の合格者は出ていないが、国労敵視の姿勢に変化。

職場における差別を一切無くすため粘り強く闘う。労働協約を締結し、労働条件の劣悪化に対し、交渉が歯止めになると信じる。交渉を通じ、組合員や他労組への宣伝などで組織拡大に繋げることが重要。

松本靖雄(大宮工場・大宮総合車両センター)

外注化が次々と実施され、会社にとっても安全問題は死活問題のほず。これは団塊世代の大量退職を乗り切る、エルダー社員の雇用確保と言われている。現場社員からは、辛く汚い作業を委託するべきという意見、安全や責任はどうでも良い感じ。国労としてもどの作業を直轄で残すべきか考え議論せざるを得ない。

最初に研修や実習を行う所で加入活動を行わなければならない。今年一三回目の昇進試験を受験し、主任試験に合格した。他労組と試験という土俵で闘うことも必要。

職場で主導権をとることは、我々自身が闘いを工夫しなければならぬ。方針転換ではなく戦術。私の合格に対し、他労組の青年がお祝い会を計画してくれている。

松田恭明(新橋・渋谷駅)

グリーンスタッフは正社員と同様に働

いている。低賃金で、寮にも入れず家賃補助もない。職場に格差社会。会社が小集団・提案・通信研修・サービスメモなど自己啓発や業務改善を迫る。結果として競争。三〇代半ばの方もおり、結婚を控えている方も。正社員に採用されなければ大変。国労の考え方や労働組合の必要性を訴え、要求を突きつけ組織的な闘いを背景に会社に迫ることが求められている。

「二〇二〇」挑む」に対しての考え方と闘いを全体化させることが大切。合理化が職場に何をもちたか、今の実態、今後の闘い方、具体的な闘いの提起を。

不採用事件は本場のラストチャンス、来年は無い。積み上げてきた闘いの成果を大切に、大衆行動に全力を。

大野広志(八王子・立川運転区)

人減らし合理化を伴う長時間労働が当り前の、健康が阻害される職場。乗務員基地再編より、根本原因である要員不足を解消し、利益追求の姿勢を改めさせるべき。安全総点検、仕事総点検運動を続け、国民や利用者の声を聴き、運動を進展させる必要。他労組にアピールする意味も込めて国労で昇進昇格試験に合格しよう

試験を一〇人受験したが合格しない。他労組の若手に国労では駄目だと思われてしまう。不採用事件。宮里先生は理論的に交渉しなければ出口は険しいと言われた。私も同感。全ての労働者と共に行動を示すことが世論喚起につながると確信。

望月英征(中央・東京工務事務所)

エルダー制度は問題多い。労働時間がJR東日本と比べ、年間で東鉄工業では六九時間、セントラル警備では一八九時間長くなる。労働時間が長くても補



てん無し。セントラル警備の作業は硬貨を荷降ろし仕分け。重労働のため全員にコルセットが支給。辞めていく人が後を絶たない。エルダー社員の労働条件改善を。組織対策費の討議資料、討議期間が不足。何のために、支出基準、組合費減額など疑問や意見が出された。

不採用問題は闘争団一人ひとりが納得する解決、雇用・年金・解決金に向け大衆行動の強化を。中央集会和合わせ、亀戸の団結祭に地本として取り組んで。

伊東敏明(大井工場・東京総合車両センター)

不採用事件について、大井工場支部では毎月一日と一六日に宣伝行動。国鉄闘争支援品川共闘会議が中心。一五回目となる品川国鉄祭を開催。解決に向けて機運を一気に広げて行こうと大きな取り組みに。一〇・二四集会の成功に向け新橋支部と共

に一〇・二南大集会を開催。大量退職と若手社員への技術継承が問題。進んでいるのが作業委託。機器更新工事はさらに丸投げされた三菱の関連会社。部品修繕場も半数の作業が外注化。技術継承がされない。

組織対策委員会を定例開催。各分会が工夫を凝らしたピラを作り、一週間連続した早朝門前ピラ。壁新聞でもアピール。国労差別が横行。研修・出張から国労を外す。支部でも現場長に申し入れた。

吉村吉光(横浜・横浜通信技術センター)

不採用問題で負ける訳に行かない。政治の場での解決を求め全力で闘う。地区本部で新規採用者説明会への参加を呼び掛け、七名が参加。我々にとっても良い経験だった。国労の呼び掛けに感じるのは、職場で数年経験し、国労を見てきた若手。若手社員には組合の選択肢が分からない、など意見が出され、分かりやすい情報やチラシなど作成し対策を行う。組対費は透明かつ職場が元気になる運用の仕方を。

メンテ合理化の矛盾点や問題点は解消されていない。慢性的な超勤。二五人で年間四、〇〇〇時間。技術継承は置き去り。

職制と職責の関係が崩壊。JR東労組が国労差別を要求し、応じてきたJR東日本会社に問題がある。

佐藤幸雄(大宮・大宮電力技術センター) 黒磯駅構内でP会社社員が感電死亡事故。P会社の下請け会社が、提出された箇所とは違う場所に変更。検電も接地も取り付けていない。基本を守らず作業場所を変更し事故。しかし、JR会社には問題はなかったか。仕事を発注したら後は知らないという体制こそ問題。亡くなった方は、経験一二年の三二歳。妻と子供三人。元気に仕事に行っていたが帰ってこない。会社側の対応の甘さ、油断があったのではないか。今年四件の感電事故。組合側のチェック体制が十分か。職能別協議会の役割が大切。

国労に加入しても試験に合格するといふ安心できる組合を作りながら、新採の国労加入を課題とし、職場で奮闘する。

湊信蔵(国府津・真鶴駅)

採用差別事件について、昨年一・二の神奈川集会を三〇〇名を超える参加で成功させた。一・三〇集會、裁判傍聴、地方議会決議行動を全力で取り組んだ。重要な局面を迎え、何としても年度内政治解決を図ろう。

昇進試験で運転職場では合格率が悪い。差別・不公平感を取り除き、組織拡大に向けて反転・攻勢する必要。地区本部も、拡大を提起し行動を展開。七月に鎌倉駅、横須賀駅、梶ヶ谷々々の加入、九月には鎌倉車両七でも。四月に国労説明会を開催し、分会の努力により、七名の新規採用者が参加。今後も東労組の不満を持っている組合員と対話活動を続ける。

国府津支部でJR国府津九条の会を結成した。地本にも九条の会を。

佐藤満(八王子・三鷹保線技術センター)

現職死亡が目立つ。相次ぐ合理化の中で、業務量の負担が増大。健康実態調査、現職死亡を起した職場の実態調査を。調査に基づき、人員削減を止めると会社側に言っていく闘いを。

組織拡大への取り組み。早い段階から分会執行委員会などで取り上げ。現場長に対して加入活動等を平等にさせることを要請。四月に三名が配属。国労グッズを渡した。国労加入とはならなかったが、国労も選択の一つということを新採に示し、以降に継続できる取り組みになった。東労組も青年層を逃さないよう闘い込もうとしている。東労組組合員の声も取り上げ、会社に言っていくことが必要。組織として信頼を得ることが大事。

岡田直之(新橋・板橋駅)

不採用事件で、新橋支部は地域集会に向け、大井工場と共に南部集会を開催。各地区で地域要請と参加呼びかけ。この集会を成功させ、一〇・二四の中央集会に向けて進んでいく。地方議会の決議も取り組んでいる。衆議院選候補者への要請も検討すべき。

契約社員から直接意見を聞いた。「正社員への道筋を明らかにして欲しい。賃金が安い、家賃補助が無い」ことを訴えている。職場の労働条件を低く抑えるものであると怒りの声。委託会社の拡大も問題。統一要求を掲げたポスターを一齐に張り出した。春闘の学習会に、昨年を上回る参加。職場実態が劣悪であることを示している。憲法改悪を許さない闘いを。

加藤英樹(上野・東京通信技術センター)

工事量の増大・要員不足、現場まで遠く、慢性的に超勤。多い人は年間三〇〇時間。検査のときに、調査や配線構成など他の仕事も組まされる。仕事は管理者が介入せず担当者が判断。結果、仲間に行き、職場の人間関係が悪化。分会では小集団、試験、組織対策、職場の問題点など議論。

試験は、国労だけではなく、JR東労組も仕事が出来ても会社から良く見られなければ受からない。労働者の競争が激しくなる。自動昇格の導入が必要。

出向先のビルテックは夜勤でも寝室がなく、机で休む。上部機関に上げていけるが改善されない。エルダーの出向者も増える。出向職場をどう変えさせていくかが課題。

問題。

